

令和4年度

研究課題総覧

島根県中山間地域研究センター

研究課題一覧

■地域研究科

| | | | |
|---|--|-------|------|
| 1 | 今後の10年間の中山間地域振興に必要な視点（新規） | | P 地1 |
| 2 | 持続可能な地域運営に備えた人材育成に関する研究 ～ 担い手確保に接続する動機付けの手法開発 ～（新規） | | |
| 3 | 人材環流を促す地域づくりに関する研究（新規） | | |
| 4 | 関係人口と連携・協働した担い手確保に関する研究 ～ 関係人口と関わりしらの見える化 ～（新規） | | P 地2 |
| 5 | 少子化要因の研究Ⅱ～ 若者の婚姻率に及ぼす影響要因の研究 ～（新規） | | |
| 6 | 地域モニタリング調査（継続） | | |
| 7 | 半農半Xモデルの家計的持続性の検証と安定化ケースの研究（新規） | | P 地3 |
| 8 | 持続性のある鳥獣対策実施体制づくりの手法の研究（継続） | | |

■きのこ・特用林産科

| | | | |
|---|--------------------------------------|-------|------|
| 1 | 県開発きのこ品種の原種菌維持・管理（継続） | | P 特1 |
| 2 | 得苗率を大幅にアップさせる病気に強く低価格なコンテナ用培土の開発（新規） | | |
| 3 | 里山保全のための多様な樹種供給（新規） | | |

■鳥獣対策科

| | | | |
|---|---|-------|------|
| 1 | 特定鳥獣管理計画と外来生物に関する生態調査・分析（イノシシ）（新規） | | P 獣1 |
| 2 | 特定鳥獣管理計画と外来生物に関する生態調査・分析（ニホンジカ）（新規） | | |
| 3 | 特定鳥獣管理計画と外来生物に関する生態調査・分析（ツキノワグマ）（新規） | | |
| 4 | 特定鳥獣管理計画と外来生物に関する生態調査・分析（アライグマ等）（継続） | | |
| 5 | 「鳥獣害ゼロ」に向けた地域づくりの効果的な推進策と問題点の改善策の確立（継続） | | P 獣2 |

■森林保護育成科

| | | | |
|---|---|-------|------|
| 1 | 山で良く育つヒノキ等コンテナ苗を効率的に生産する技術の確立 ～出荷規格、播種技術、根腐症対策に着目して～（継続） | | P 森1 |
| 2 | 「成長が良く、材質に優れたスギ・ヒノキ」の開発と短伐期低コスト施業の確立（継続） | | |
| 3 | ICT等を活用した林業省力化技術の分析及び現場導入に向けたマニュアル化（継続） | | |
| 4 | コウヨウザン・センダン等の早生樹の導入による新たな林業経営モデルの開発（継続） | | P 森2 |

■木材利用科

| | | | |
|---|--|-------|------|
| 1 | 原木段階での強度選別と県産大径A材を活用した住宅向け心取り無垢横架材の開発（継続） | | P 木1 |
| 2 | 県産スギ大径A材を利用した非住宅向け大スパン建築部材（心取り部材の重ね合せによる大断面横架材）の開発（継続） | | |
| 3 | 伐期を迎えるヒノキ及び資源量豊富な広葉樹の高品質・高付加価値利用に向けた加工・利用技術の開発（継続） | | |

地域研究科

[地域研究科]

- 1 研究課題名： 今後の10年間の中山間地域振興に必要な視点（新規）
研究区分： 県単
研究期間： R4～6年度
担当者： 地域研究科研究員（統括：研究企画監 有田、専門研究員 皆田）
目的： 以下の調査研究を行い、人口対策の効果をより高めるために必要な対策、地域の人口が縮小した場合に必要な対策の視点に必要な視点を整理する。
研究項目： ○人口動態・世帯構造の推移分析、10年後の中山間地域の分析
○今後必要な人口・担い手対策の視点の整理
○人口・担い手の減少、高齢世帯増加が更に進行した場合に必要な対策の視点の整理
- 2 研究課題名： 持続可能な地域運営に備えた人材育成に関する研究
～ 担い手確保に接続する動機付けの手法開発 ～（新規）
研究区分： 県単
研究期間： R4～6年度
担当者： 専門研究員 皆田 潔、主任研究員 東 良太
目的： 以下の調査研究を行い、地域運営の担い手育成に必要な人材育成方法の研究を行う。
研究項目： ○地域への関心を高める学びの手法の整理
○小さな拠点づくりにおける地元学の有効性検証
○住民参加の動機付けとなる人材育成プログラムの手法開発
- 3 研究課題名： 人材環流を促す地域づくりに関する研究（新規）
研究区分： 県単
研究期間： R4～6年度
担当者： 研究員 貫田 理紗、主任研究員 東 良太
目的： 以下の調査研究を行い、Uターンの心理的基盤を形成する要素を行う。
研究項目： ○県・市町村の人口移動の特徴の分析
○ふるさとへの心理的基盤の形成を促す条件と取組内容の把握
○Uターン促進に有効な地域と自治体の実践・取組の把握

[地域研究科]

- 4 研究課題名： 関係人口と連携・協働した担い手確保に関する研究
～ 関係人口と関わりしらの見える化 ～（新規）
- 研究区分： 県単
- 研究期間： R4～6年度
- 担当者： 主任研究員 東 良太、研究員 貫田 理紗
- 目的： 以下の調査研究を行い、出身者や関係人口との繋がり現状把握を通して、多様な主体が連携・協働した支え合いの仕組みづくりの促進策を研究する。
- 研究項目： ○関係人口の居住地・価値観・意識・行動についての分析
○地域内外の主体と連携しやすい内容（関わりしろ）の抽出
○ 関係人口との連携・協働に向けたポイント整理・支え合い支援ツールの開発
- 5 研究課題名： 少子化要因の研究Ⅱ
～ 若者の婚姻率に及ぼす影響要因の研究 ～（新規）
- 研究区分： 県単
- 研究期間： R4～6年度
- 担当者： 研究企画監 有田 昭一郎、研究員 貫田 理紗
- 目的： 以下の調査研究を行い、婚姻率への影響要因の研究を行い、第5期前期研究（少子化要因の研究Ⅰ）の成果を併せて自治体自己診断シートを開発する。
- 研究項目： ○婚姻に関する全体的な動向の分析（婚姻に関する国内外の状況の文献調査、国内状況の統計分析）
○小さな拠点づくりにおける地元学の有効性検証
○婚姻に関する影響要因分析（未婚者、既婚者へのヒアリング調査およびアンケート及び分析）
○自治体自己診断シートの開発
- 6 研究課題名： 地域モニタリング調査（継続）
- 研究区分： 県単
- 研究期間： R2～6年度
- 担当者： 有田、皆田、東、貫田
- 目的： 以下の調査研究を行い、人口、高齢化率、地域活動状況の定点観測する。
- 研究項目： ○公民館エリア等での人口、高齢化率の詳細調査、将来人口推計（毎年）
○集落、地域運営組織の活動状況、生活機能の維持状況の調査（4～5年毎）

[地域研究科]

- 7 研究課題名：半農半Xモデルの家計的持続性の検証と安定化ケースの研究（新規）
- 研究区分：県単
- 研究期間：R4～6年度
- 担当者：研究企画監 有田 昭一郎
- 目的：地域研究科開発の家計シミュレーションソフト『田舎くらし設計』を利用し、半農半X定住世帯の調査を行い、働き方（農林業＋半X）、ライフスタイルを組み合わせ様々な持続的定住モデルを設計する。
- 研究項目：○半農半X定住世帯の家計とライフスタイルのヒアリング調査
○半農半X定住生態の将来に向けた収入支出シミュレーション
○県農林部・地域振興部、市町村等で、新規就農林支援や定住相談で利用できる資料を作成
- 8 研究課題名：持続性のある鳥獣対策実施体制づくりの手法の研究（継続）
- 研究区分：県単
- 研究期間：R3～5年度
- 担当者：研究企画監 有田 昭一郎、専門研究員 皆田 潔
- 目的：中山間地域の大きな地域課題である、鳥獣害対策に取り組む団体に対し調査を実施し、地域での被害発生から相談対応までの速やかな手順や、持続的な鳥獣対策体制づくりにつなげるために必要な支援フローの整理。また、持続的な鳥獣対策体制に取り組む事例と進め方のポイントを整理する。
- 研究項目：○鳥獣害対策に取り組む団体に対してのヒアリング調査
○地域での被害発生から相談対応までの速やかな手順や、持続的な鳥獣対策体制づくりにつなげるために必要な支援フローの整理
○持続的な鳥獣対策体制に取り組む事例と進め方のポイントを整理

きのこ・特用林産科

[きのこ・特用林産科]

- 1 研究課題名：** 県開発きのこ品種の原種菌維持・管理（継続）

研究区分： 県単・一般

研究期間： H30～R4年度

担当者： 富川、口脇

目的： これまでに開発した県オリジナルきのこ品種の栽培特性を維持しつつ、産地の生産実態に応じた適正な栽培条件を明らかにする。

研究項目： ①品種の長期保存法・種菌の安定配布技術の開発
②各品種に適合した栽培条件の解明と現地栽培実証

- 2 研究課題名：** 得苗率を大幅にアップさせる病気に強く低価格なコンテナ用培土の開発（新規）

研究区分： 県単・一般

研究期間： R4～6年度

担当者： 口脇、富川

目的： 廃菌床をコンテナ育苗培土や畜舎で使用される敷料として利用する技術を開発する。このため、廃菌床の乾燥・粉砕条件を明らかにする。

研究項目： ①効率的、省力的な乾燥・粉砕方法の現地実証
②培土、敷料としての適性評価と活用モデル地域の育成

- 3 研究課題名：** 里山保全のための多様な樹種供給（新規）

研究区分： 県単・一般

研究期間： R4～6年度

担当者： 口脇、富川

目的： クロモジなどの特用樹を利用して林業経営の多様化を進める。対象樹種の育苗技術と、萌芽再生力を考慮した伐出方法を検討する。

研究項目： ①育苗技術開発と母樹育成
②資源量早期回復技術の確立と生産工程調査

鳥獸対策科

[鳥獣対策科]

- 1 研究課題名：** 特定鳥獣管理計画と外来生物に関する生態調査・分析（イノシシ）
（新規）
- 研究区分：** 県単・重点
研究期間： R4～R8年度
担当者： 坂倉
- 目的：** イノシシの「第Ⅴ期特定鳥獣管理計画」において、「生息状況等調査」、「捕獲従事者実態調査」及び「資源利用状況調査」などを行い、特定計画の現状把握、各目標の達成状況を評価する。
- 研究項目：** ①生息状況、捕獲個体調査
②捕獲従事者実態調査
③被害防除調査
④資源利用状況調査
⑤ツキノワグマ錯誤捕獲防止技術の開発
- 2 研究課題名：** 特定鳥獣管理計画と外来生物に関する生態調査・分析（ニホンジカ）
（新規）
- 研究区分：** 県単・重点
研究期間： R4～R8年度
担当者： 坂倉
- 目的：** ニホンジカの「第Ⅵ期特定鳥獣管理計画」において、対象地域を3地域にわけ、「生息状況調査」、「被害実態調査」などを行い、特定計画の現状把握、各目標の達成状況を評価するとともに、造林地における適切な被害対策を提案する。
- 研究項目：** ①生息状況調査
②被害実態調査
③捕獲実態及び捕獲個体調査
④分布拡大地域における行動特性調査
⑤ツキノワグマ錯誤捕獲防止技術の開発
- 3 研究課題名：** 特定鳥獣管理計画と外来生物に関する生態調査・分析（ツキノワグマ）
（新規）
- 研究区分：** 県単・重点
研究期間： R4～R8年度
担当者： 小沼
- 目的：** ツキノワグマの「第Ⅴ期特定鳥獣管理計画」において、「生息環境・利用実態調査」などを行い、特定計画の現状把握、各目標の達成状況を評価するとともに、初夏や秋季における精度の高いクマ出没予測を行うことで、人身被害の未然防止等を図る。
- 研究項目：** ①生息環境・利用実態（出没予測、捕獲個体の検証を含む）調査
②被害実態及び誘引物対策の検証
- 4 研究課題名：** 特定鳥獣管理計画と外来生物に関する生態調査・分析（アライグマ等）
（継続）
- 研究区分：** 県単・重点
研究期間： H30～R4年度
担当者： 小沼
- 目的：** 外来生物であるアライグマ、ヌートリアおよびハクビシンを対象に、生息分布域の変動を把握するとともに、捕獲と被害対策による生息数低減や被害減少効果を検証して、より効果的な被害対策を提案する。
- 研究項目：** ①生息・被害実態調査
②アライグマ（メス）分布拡大地域における個体認知度等調査
③分布拡大予測手法の確立
④被害対策の効果調査及び新型わなの開発
⑤捕獲個体（DNA解析含む）調査

[鳥獣対策科]

- 5 研究課題名： 「鳥獣害ゼロ」に向けた地域づくりの効果的な推進策と問題点の改善策の確立（継続）
- 研究区分： 県単・重点
- 研究期間： R3～5年度
- 担当者： 大國
- 目的： 被害ゼロ地域において、鳥獣被害対策チームの取り組み内容等を分析して、成功要因や失敗要因を抽出することにより、地域ぐるみ（営農組織含む）で野生鳥獣に対する被害対策を実施するために必要な手順書、事例集を作成する。
- 研究項目： ①指定地域の対策事例の収集及び事例集の作成
（被害実態、被害対策、防護柵等の管理体制、個体の捕獲体制及び指導内容など）
②手順書（マニュアル）の作成

森林保護育成科

[森林保護育成科]

- 1 研究課題名： 山で良く育つヒノキ等コンテナ苗を効率的に生産する技術の確立～出荷規格、播種技術、根腐症対策に着目して～（継続）
- 研究区分： 県単・重点
- 研究期間： R2～R4年度
- 担当者： 陶山・田中
- 目的： ヒノキコンテナ苗生産では得苗率が低い生産者が多い。そこで、ヒノキコンテナ苗の生産技術の高度化を図る。また、従来のコンテナ苗より植栽後の成長等に優れ、得苗率の大幅向上といった効果がある小サイズの苗木の生産技術を確立し、新たな規格を提案する（ダウンサイジング）。そして、一粒播種技術を確立し、育苗の省力化を図る。また、根腐症などコンテナ苗特有の枯損の対策を確立する。
- 研究項目： ①ヒノキコンテナ苗生産技術の高度化
②ダウンサイジング
③一粒播種
④枯損対策
- 2 研究課題名： 「成長が良く、材質に優れたスギ・ヒノキ」の開発と短伐期低コスト施業の確立（継続）
- 研究区分： 県単・重点
- 研究期間： R3～R4年度
- 担当者： 田中
- 目的： 林業のコスト低減を確実に推進するため、成長が良く、かつA材が多く採れる通直で、材質に優れた特定母樹の開発が必要である。本研究では次代検定林から特定母樹の基準を満たす個体を選抜し、採種穂園の母樹となる挿木苗の育成技術を確立する。そして、経営モデル等のマニュアルを作成する。
- 研究項目： ①候補木選抜
②増殖試験
③しまね特定母樹の短伐期低コスト施業の確立
- 3 研究課題名： ICT等を活用した林業省力化技術の分析及び現場導入に向けたマニュアル化（継続）
- 研究区分： 県単・重点
- 研究期間： R3～R5年度
- 担当者： 狩野・舟木・渡部
- 目的： 林業分野への導入が緒に就いたばかりのICT技術について、ICT技術を搭載した林業機械等の実証データを収集・評価し、林業事業者などが最適なICT技術を選択することが出来る資料を作成する。
- 研究項目： ①ICT技術実証試験
②ICT技術情報の収集
③ICT技術資料の作成および実証

[森林保護育成科]

4 研究課題名： コウヨウザン・センダン等の早生樹の導入による新たな林業経営モデルの開発（継続）

研究区分： 県単・重点

研究期間： H30～R4年度

担当者： 安達・陶山

目的： 林業経営サイクルの短期化が期待される早生樹の導入を適確に行うため、植栽試験地を設定して早生樹の特性が発揮される生育適地や施業方法を明らかにする。

研究項目： ①生育適地、成長速度、被圧耐性等の早生樹の特性調査
②獣害、気象害対策の検討
③早生樹育苗方法の確立

木材利用科

[木材利用科]

- 1 研究課題名： 原木段階での強度選別と県産大径A材を活用した住宅向け心去り無垢横架材の開発（継続）
- 研究区分： 県単・重点
- 研究期間： R2～4年度
- 担当者： 嘉本・村上・古志野
- 目的： 県産材を木造住宅で国産材使用割合が低い横架材に利用するため、ヒノキ及び大径化が進むスギから「品質・性能の確かな横架材」を生産・利用する技術を開発する。
- 研究項目： ①原木段階で製材品の強度を予測する手法の確立
②ヒノキ横架材・スギ心去り横架材の生産技術の開発
③ヒノキ横架材・スギ心去り横架材の利用技術の開発
④製材品生産の実証
- 2 研究課題名： 県産スギ大径A材を利用した非住宅向け大スパン建築部材（心去り部材の重ね合せによる大断面横架材）の開発（継続）
- 研究区分： 県単・重点
- 研究期間： R3～4年度
- 担当者： 古志野・村上・嘉本
- 目的： 大径原木を活用し、中大規模建築物（非住宅）に使用できる横架材（梁・桁）を製造する技術の開発する。また、大径原木の製材の際に発生する板類を利用した販売単価の高い製品づくりに向けての高付加価値化技術を開発する。
- 研究項目： ①県産大径材を活用した木造非住宅建築物用横架材の開発
②県産大径材を無駄なく有効活用するための高付加価値板製品の開発
- 3 研究課題名： 伐期を迎えるヒノキ及び資源量豊富な広葉樹の高品質・高付加価値利用に向けた加工・利用技術の開発（継続）
- 研究区分： 県単・重点
- 研究期間： R1～5年度
- 担当者： 村上・嘉本・古志野
- 目的： 広葉樹の材質調査を行い、新用途開発に向けた基礎データの集積を行う。また、事業体の設備と製材品目などの実情に応じた適切な乾燥スケジュールの確立や、新商品等の性能試験を行う。さらに、これまで当センターで開発した木材加工・利用技術についても、高度化に向けた実証試験を実施する。
- 研究項目： ①広葉樹の材質調査の実施
②高品質製品生産のための乾燥・性能試験と開発技術の高度化